

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニッポンタイイクダイガク 学校法人 日本体育大学								
フリガナ大学の名称	ニッポンタイイクダイガクダイガクイン 日本体育大学大学院 (Graduate School of Nippon Sport Science University)								
大学本部の位置	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号								
大学の目的	日本体育大学大学院は、体育及びスポーツ、教科教育並びに保健医療に関する高度の学術研究により、その深奥をきわめ、学術の応用に貢献して競技力向上、教科教育の実践並びに保健医療に関する研究を推進するとともに、高度な学識と研究能力を持った専門家の養成と、社会の多様な分野で活躍し得る人間の育成を目標とし、スポーツ文化の発展、新たな教科教育学の構築並びに保健医療の推進と人類の友好・親善に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	救急災害医療分野における学術研究により、スポーツ救急や災害医療システム構築などの臨床・教育現場における研究を推進するとともに、アクティブラーニングの実践を通して、地域社会に還元できる人材育成を目標とし、救急災害医療学の発展と人類の友好・親善に貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	保健医療学研究科 [Graduate School of Medical and Health Science] 救急災害医療学専攻 (博士課程) [Doctoral Program in Emergency and Disaster Medicine]	3年	2人	—	6人	博士 (救急災害医療学) 【Doctor of Philosophy in Emergency and Disaster Medicine】	平成32年4月 第1年次	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1	
	計	2	—	6	6				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	【当該申請以外の申請等】 保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻 博士課程 (2) (平成31年3月認可申請)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	保健医療学研究科 救急災害医療学専攻 (博士課程)	講義	演習	実験・実習	計	28単位			
教員の組織概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	保健医療学研究科 救急災害医療学専攻 (博士課程)		8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)
		保健医療学研究科 運動器柔道整復学専攻 (博士課程)		5 (5)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)
		計		13 (13)	9 (9)	1 (1)	1 (1)	24 (24)	0 (0)
	既設	体育科学研究科 体育科学専攻 (博士前期課程)		21 (21)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)
		体育科学研究科 体育科学専攻 (博士後期課程)		15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)
		体育科学研究科 コーチング学専攻 (博士前期課程)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)
		体育科学研究科 コーチング学専攻 (博士後期課程)		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)
		教育学研究科 実践教科教育学専攻 (博士前期課程)		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)
概要	教育学研究科 実践教科教育学専攻 (博士後期課程)		9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	
	保健医療学研究科 保健医療学専攻 (修士課程)		8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	
	計		58 (58)	16 (16)	0 (0)	1 (1)	75 (75)	0 (0)	
	合計		64 (64)	22 (22)	1 (1)	2 (2)	89 (89)	0 (0)	

【基礎となる学部等】
保健医療学部
救急医療学科

保健医療学研究科
保健医療学専攻

14条特例の実施

平成31年3月認可申請

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		88 (88)	42 (42)	130 (130)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		94 (94)	42 (42)	136 (136)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	126,410.53㎡	0㎡	0㎡	126,410.53㎡					
	運 動 場 用 地	84,055.66㎡	0㎡	0㎡	84,055.66㎡					
	小 計	210,466.19㎡	0㎡	0㎡	210,466.19㎡					
	そ の 他	56,867.13㎡	0㎡	0㎡	56,867.13㎡					
合 計		267,333.32㎡	0㎡	0㎡	267,333.32㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		67,984.04㎡ (67,984.04 ㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	67,984.04㎡ (67,984.04 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	74室	40室	66室	4室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		保健医療学研究科救急災害医療学専攻(博士課程)		12 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	保健医療学研究科（修士課程・博士課程）は保健医療学部図書館と共用 大学全体の共用分 図書：519,758(138,392) 学術雑誌：6,768(1,38) 電子ジャーナル： 10,661(9,381) 「機械・器具」、「標本」は大学（保健医療学部）全体の数	
	保健医療学研究科 救急災害医療学専攻 (博士課程)		6,721 [170] (6,211 [152])	65 [8] (65 [8])	41 [7] (41 [7])	56 (56)	2,379 (2,379)	29 (29)		
	計		6,721 [170] (6,211 [152])	65 [8] (65 [8])	41 [7] (41 [7])	56 (56)	2,379 (2,379)	29 (29)		
図 書 館		面積		閲覧席席数		収 納 可 能 冊 数				
		3,128㎡		711席		562,000冊				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		42,845.64㎡		野球場、サッカー場、ラグビー場、陸上競技場、温水プール、テニスコート、ゴルフ教場、ビーチバレーコート						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当りの研究費等について、研究科単位での算出不能なため、学部との合計。 図書購入費には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		750千円	750千円	750千円	—	—	—	
		共同研究費等		600千円	1,000千円	1,400千円	—	—	—	
		図書購入費	500千円	280千円	300千円	310千円	—	—	—	
	設備購入費	22,950千円	19,764千円	2,000千円	2,000千円	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,110千円	810千円	810千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金							

既設大学等の状況	大学の名称		日本体育大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	体育学部						1.03			
	体育学科	4	750	—	3,000	学士 (体育学)	1.04	昭和24年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1	
	健康学科	4	195	—	780	学士 (体育学)	1.00	昭和37年度		
	武道学科	—	—	—	—	学士 (体育学)	—	昭和40年度		
	社会体育学科	—	—	—	—	学士 (体育学)	—	昭和50年度		
	スポーツ文化学部						1.03			
	武道教育学科	4	100	—	300	学士 (体育学)	1.02	平成29年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
	スポーツ国際学科	4	100	—	300	学士 (体育学)	1.04	平成29年度		
	スポーツマネジメント学部						1.03			
	スポーツマネジメント学科	4	145	—	290	学士 (体育学)	1.04	平成30年度	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1	
	スポーツライフマネジメント学科	4	110	—	220	学士 (体育学)	1.01	平成30年度		
	児童スポーツ教育学部						1.03			
	児童スポーツ教育学科	4	200	—	800					
	児童スポーツ教育コース	4	150	—	600	学士 (児童スポーツ教育学)	1.03	平成25年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
	幼児教育保育コース	4	50	—	200	学士 (児童スポーツ教育学)	1.00	平成25年度		
	保健医療学部						1.03			
整復医療学科	4	90	—	360	学士 (整復医療学)	1.05	平成26年度	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1		
救急医療学科	4	80	—	320	学士 (救急医療学)	1.01	平成26年度			
既設大学等の状況	大学の名称		日本体育大学大学院							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	体育科学研究科									
	体育科学専攻 (博士前期課程)	2	25	—	50	修士 (体育科学)	1.18	昭和60年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
	体育科学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (体育科学)	1.83	平成9年度		
	コーチング学専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士 (コーチング学)	1.45	平成30年度		
	コーチング学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	6	博士 (コーチング学)	1.66	平成30年度		
	教育学研究科									
	実践教科教育学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.30	平成29年度	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
	実践教科教育学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (教育学)	1.93	平成29年度		
	保健医療学研究科									
	保健医療学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士 (柔道整復学) 修士 (救急災害医療学)	0.99	平成30年度	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1	

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：体育研究所 目的：体育・スポーツに関する研究 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：昭和37年4月 規模等：242.37㎡（オリンピックスポーツ文化研究所、スポーツ危機管理研究所と共用）</p> <p>名称：スポーツ・トレーニングセンター 目的：学生の体力向上及びトップアスリートの競技力向上 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：昭和39年2月 規模等：990.56㎡（東京・世田谷キャンパス スポーツ棟1階） 1,874.24㎡（横浜・健志台キャンパス 百年記念館1階）</p> <p>名称：オリンピックスポーツ文化研究所 目的：オリンピックの研究を通じて広く世界の福祉に貢献し本邦のスポーツ文化を牽引する 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：242.37㎡（体育研究所、スポーツ危機管理研究所と共用）</p> <p>名称：日本体育大学スポーツケアセンター横浜・健志台接骨院 目的：保健医療学部における教育及び研究に係る施術の場として機能するとともに柔道整復師による施術の提供等を通して柔道整復の発展に寄与する 所在地：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：平成27年10月 規模等：176.83㎡</p> <p>名称：ハイパフォーマンスセンター 目的：オリンピック・パラリンピアンを輩出・育成するための学生アスリート支援システムの活動を展開する 所在地：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：平成29年4月 規模等：76.23㎡（コーチングエクセレンスセンターと共用）</p> <p>名称：コーチングエクセレンスセンター 目的：本学学生アスリートの競技力向上及び教育者として人間性の向上を目指した支援等を行う 所在地：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：平成29年4月 規模等：76.23㎡（ハイパフォーマンスセンターと共用）</p> <p>名称：スポーツ危機管理研究所 目的：体育及びスポーツの現場から重大事故・暴力・ハラスメント等人権侵害に関する諸問題の解決を図る 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成30年4月 規模等：242.37㎡（体育研究所、オリンピックスポーツ文化研究所と共用）</p> <p>名称：日本体育大学クリニック 目的：診療並びに教育・研究への協力、アスリートのメディカルサポート及び地域医療への貢献 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成30年12月 規模等：261.2㎡</p>	
----------------	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(保健医療学研究科救急災害医療学専攻 博士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	救急災害医療学特講	1前	2			○			4	2					ホニバス 共同 (一部) 集中
	救急災害医療学演習	1後		2			○		3	2					ホニバス 共同 (一部) 集中
	スポーツ救急特講	1後		2		○			3	1		1			ホニバス 共同 (一部) 集中
	国際救急・災害システム演習	1後		2			○		3	1					ホニバス 共同 集中
	小計 (4科目)	—	2	6	0		—		7	3	0	1	0	0	—
研究指導	救急災害医療学特別演習Ⅰ	1通	4				○		8	3		1			共同 集中
	救急災害医療学特別演習Ⅱ	2通	4				○		8	3		1			共同 集中
	救急災害医療学特別演習Ⅲ	3通	4				○		8	3		1			共同 集中
	救急災害医療学特別研究Ⅰ	1通	4				○		8	3		1			共同 集中
	救急災害医療学特別研究Ⅱ	2通	4				○		8	3		1			共同 集中
	救急災害医療学特別研究Ⅲ	3通	4				○		8	3		1			共同 集中
	小計 (6科目)	—	24	0	0		—		8	3		1			—
合計 (10科目)		—	26	6	0		—		8	3	0	1	0	0	—
学位又は称号	博士 (救急災害医療学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)												
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
専門科目から必修を含む4単位以上、特別指導科目から24単位を修得し、合計28単位以上を修得すること。かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1 学年の学期区分			2期					
							1 学期の授業期間			15週					
							1 時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科救急災害医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	救急災害医療学特講	<p>(目標・概要) 救急・災害医学に関する最新の知識及び社会情勢を学習し、自立して研究活動を行う能力を養う。最新の論文をPICO/PECOでまとめながら、研究目的・方法・結果・考察についてディスカッションを行い、研究手法や倫理的配慮など研究能力を身に着けるよう指導する。全15回を集中講義で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(<u>2</u> 小川 理郎(主) <u>4</u> 横田 裕行/5回) 救急医学に関する最新の知識を修得し、The New England Journal of MedicineやResuscitationなどから最新の論文をPICO/PECOでまとめ、ディスカッションを行い、研究手法や倫理的配慮など研究能力を身に着けるよう指導する。</p> <p>(<u>3</u> 山本 保博 <u>11</u> 鈴木 健介/6回) 災害医学に関する最新の知識を修得し、Prehospital and Disaster Medicineなどから最新の論文をPICO/PECOでまとめ、ディスカッションを行い、研究手法や倫理的配慮など研究能力を身に着けるよう指導する。</p> <p>(<u>6</u> 平沼 直人/2回) 救急・災害医学に関する最新の知識を修得し、救急災害医療に関する法律や医療訴訟の事例から、倫理面や法的な問題点をまとめ、ディスカッションを行い、研究手法や倫理的配慮など研究能力を身に着けるよう指導する。</p> <p>(<u>9</u> 後藤 真史奈/2回) 救急医学(基礎)に関する最新の知識を修得し、The New England Journal of MedicineやThe Lancetなどから最新の論文をPICO/PECOでまとめ、ディスカッションを行い、研究手法や倫理的配慮など研究能力を身に着けるよう指導する。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 集中
	救急災害医療学演習	<p>(目標・概要) 救急・災害医学に関する最新の知識・技術を修得し、研究活動能力を向上させる指導をする。被災地訪問や臨床施設で演習を行いながら、研究目的・方法・結果・考察・倫理的配慮についてディスカッションを行い、研究活動に繋げる指導をする。全15回を集中講義で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(<u>2</u> 小川 理郎(主) <u>4</u> 横田 裕行/6回) 救急医学に関する最新の知識・技術を修得する。臨床施設で演習を行い、最新の研究手法と倫理的配慮をまとめ、ディスカッション及びプレゼンテーションを行い、分析、検討内容を研究活動に繋げる指導をする。</p> <p>(<u>3</u> 山本 保博 <u>11</u> 鈴木 健介/6回) 災害医学に関する最新の知識・技術を修得する。病院や消防機関が主催する災害訓練などから最新の知識・技術をまとめ、ディスカッションを行い、分析、検討内容を研究活動に繋げる指導をする。</p> <p>(<u>9</u> 後藤 真史奈/3回) 救急医学(基礎)に関する最新の知識・技術を修得する。研究施設で演習を行い、研究手法についてディスカッションを行い、分析、検討内容を研究活動に繋げる指導をする。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 集中
	スポーツ救急特講	<p>(目標・概要) スポーツ現場で発生する急性の外傷、疾病について、それぞれのスポーツ医・科学および臨床スポーツ医学専門学術誌における最新の原著論文を精読・議論し、解析する。本講義の目的は(1)スポーツ救急分野において学問的基礎となるスポーツ医・科学の最新の知見を得るとともに、その知識を土台にしてスポーツ臨床医学分野の原著論文を精読・議論し、解析することで、(2)最先端のスポーツ救急分野における研究手法や倫理的配慮など研究能力を身に着けるよう指導することにある。全15回を集中講義で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(<u>1</u> 平沼 憲治(主)/3回) マスキング対応に関する論文と過去の事例について精読・議論する。</p> <p>(<u>5</u> 舟橋 厚/2回) 発達障害(自閉症・自閉スペクトラム障害・知的障害など)に関する臨床スポーツ医学分野の原著論文を精読・議論する。</p> <p>(<u>7</u> 中里 浩一 <u>12</u> 鴻崎 香里奈/6回) スポーツ現場で発生する急性の外傷および疾病に関連するスポーツ医・科学分野の原著論文を精読・議論する。</p> <p>(<u>10</u> 遠藤 直哉/3回) 内科的疾患とオリンピックにおける医療体制に関する臨床スポーツ医学分野の原著論文を精読・議論する。</p> <p>(<u>1</u> 平沼 憲治 <u>11</u> 遠藤 直哉/1回) 臨床スポーツ医学分野における研究手法と倫理的配慮についてディスカッションし、研究手法を決定し研究計画を立案した上で結論を導き、研究内容を論文に反映させるための指導をする。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 集中
	国際救急・災害システム演習	<p>(目標・概要) 国際救急・災害システムに関する最新の知識・技術を修得し、研究活動能力及び国際的な視野を身に着けるための指導をする。臨床施設で演習を行いながら、研究目的・方法・結果・考察・倫理的配慮についてディスカッションを行い、さらに、個別に事例を分析した上で、各々に適する徹底した指導と、議論・分析内容を論文に反映できるよう指導をする。全15回を集中講義で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(<u>2</u> 小川 理郎(主) <u>4</u> 横田 裕行/8回) 米国の救急医学に関する最新の知識・技術を修得するため、米国の臨床施設で演習を行い、最新の知識・技術をまとめ、研究手法と倫理的配慮についてディスカッションをした上で、個別事例を分析し、徹底した指導をするとともに、議論・分析内容を論文に反映できるよう指導する。</p> <p>(<u>3</u> 山本 保博 <u>11</u> 鈴木 健介/7回) 米国の災害医学に関する最新の知識・技術を修得する。病院や消防機関が主催する災害訓練などから最新の知識・技術をまとめ、研究手法と倫理的配慮についてディスカッションをした上で、個別事例を分析し、徹底した指導をするとともに、議論・分析内容を論文に反映できるよう指導する。</p>	オムニバス方式 共同 集中

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科救急災害医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別指導科目	救急災害医療学特別演習	<p>(目標・概要) 救急災害医療の研究に関わる論文を収集し、研究の立案・実行方法、論文の書き方など、研究を行うために必要な基礎能力を身につける。研究のオリジナリティや課題を理解し、それらを分類して整理する能力を養う。また、医療人として常に知識の獲得が出来るよう積極性を養う。</p> <p>(1) 平沼 憲治 (5) 舟橋 厚 (6) 平沼 直人) スポーツ救急分野における論文検索、論文整理、原著論文6本の抄読を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (2) 小川 理郎 (9) 後藤 真吏奈) 論文検索、論文整理、レビュー作成及び医学研究に必要な統計手法の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (3) 山本 保博 (4) 横田 裕行 (11) 鈴木 健介) 救急災害医療学分野における論文検索、論文整理、原著論文6本の抄読を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (7) 中里 浩一 (12) 鴻崎 香里奈) 生理学・生化学・細胞生物学・分子生物学原著論文の関連論文検索、整理、精読を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (8) 小林 正利 (10) 遠藤 直哉) 形態研究に関する文献検索、研究方法の紹介、研究倫理の解説、論文抄読を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p>	共同集中
	救急災害医療学特別演習	<p>(目標・概要) 研究計画の立案・実行方法など、研究を行うために必要な総合能力を修得する。研究に必要な文献を引用し、研究の課題を指摘する。また、研究方法、結果、考察、結論など研究遂行のための総合能力を身につける。</p> <p>(1) 平沼 憲治 (5) 舟橋 厚 (6) 平沼 直人) スポーツ救急分野における研究方法の検討、実験結果の統計及び検証・議論を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (2) 小川 理郎 (9) 後藤 真吏奈) 救急蘇生の臨床研究及び基礎研究における研究方法の検討、研究結果の統計及び検証・議論を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (3) 山本 保博 (4) 横田 裕行 (11) 鈴木 健介) 救急災害医療学分野における研究方法の検討、実験結果の統計及び検証・議論を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (7) 中里 浩一 (12) 鴻崎 香里奈) 研究方法の検討、蒐集した論文の精読を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (8) 小林 正利 (10) 遠藤 直哉) 形態研究に関する研究方法の検討、ポスター及び論文の作成法演習を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p>	共同集中
	救急災害医療学特別演習	<p>(目標・概要) 特別演習 ・ で修得した知識と実験、その結果のまとめと考察、課題抽出等を行い、論文を作成する。</p> <p>(1) 平沼 憲治 (5) 舟橋 厚 (6) 平沼 直人) スポーツ救急分野における研究方法の確立、予備実験結果の考察及び文書化を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (2) 小川 理郎 (9) 後藤 真吏奈) 救急蘇生の臨床研究及び基礎研究における研究方法の確立、研究結果の考察及び文書化を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (3) 山本 保博 (4) 横田 裕行 (11) 鈴木 健介) 救急災害医療学分野における研究方法の確立、実験結果の考察及び文書化を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (7) 中里 浩一 (12) 鴻崎 香里奈) 博士論文4本の関連論文通読、研究方法の確立、研究結果の考察及び文書化を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。 (8) 小林 正利 (10) 遠藤 直哉) 救急災害医療学分野に関連する形態研究の原著論文抄読を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p>	共同集中

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科救急災害医療学専攻 博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別指導科目	救急災害医療学特別研究	<p>(目標・概要) 基礎研究に関わる論文を収集し、研究を行うために必要な基礎能力を身につける。研究のオリジナリティや課題を理解し、それらを分類して整理する能力を養う。また、医療人として常に知識の獲得が出来るよう積極性を養う。</p> <p>(1) 平沼 憲治 (5) 舟橋 厚 (6) 平沼 直人) スポーツ救急分野における医療倫理、関連法令・諸規定の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(2) 小川 理郎 (9) 後藤 真史奈) 救急蘇生の臨床研究及び基礎研究における医療倫理、関連法令・諸規定の学修並びに予備実験を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(3) 山本 保博 (4) 横田 裕行 (11) 鈴木 健介) 救急災害医療に関する研究計画を立案し、研究遂行に必須の医療統計を操作し、医療倫理に配慮した論文の書き方、Journalの評価について修得する。</p> <p>(7) 中里 浩一 (12) 鴻崎 香里奈) 生理学・生化学・細胞生物学・分子生物学原著論文の関連論文解説並びに医療倫理の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(8) 小林 正利 (10) 遠藤 直哉) 形態研究に関連した予備実験の実施及び結果の分析並びに医療倫理の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p>	共同集中
	救急災害医療学特別研究	<p>(目標・概要) 研究計画に基づき、研究方法・結果・考察を組み立て、研究遂行のための基礎能力を修得する。また、ポジティブフィードバックの手法から論文作成の過程と作成の総合能力を修得する。</p> <p>(1) 平沼 憲治 (5) 舟橋 厚 (6) 平沼 直人) スポーツ救急分野における予備実験の実施及び結果考察並びに倫理委員会への申請手続の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(2) 小川 理郎 (9) 後藤 真史奈) 救急蘇生の臨床研究・基礎研究における実験の実施及び結果考察並びに倫理委員会への申請手続の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(3) 山本 保博 (4) 横田 裕行 (11) 鈴木 健介) 救急災害医療学分野における実験の実施及び結果考察並びに倫理委員会への申請手続の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(7) 中里 浩一 (12) 鴻崎 香里奈) 各小テーマに関する実験の実施及び結果考察並びに倫理委員会への申請手続の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(8) 小林 正利 (10) 遠藤 直哉) 形態研究に関連した予備実験の実施及び結果考察並びに倫理委員会への申請手続の学修を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p>	共同集中
	救急災害医療学特別研究	<p>(目標・概要) 最終学年として研究計画に従って実験、データの収集と解析能力の向上、客観的な考察能力を修得し、学位論文を作成する。</p> <p>(1) 平沼 憲治 (5) 舟橋 厚 (6) 平沼 直人) スポーツ救急分野における実験の実施及び結果考察並びに博士論文の作成を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(2) 小川 理郎 (9) 後藤 真史奈) 救急蘇生の臨床研究・基礎研究における実験の実施及び結果考察並びに博士論文の作成を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(3) 山本 保博 (4) 横田 裕行 (11) 鈴木 健介) 救急災害医療学分野における実験の実施及び結果考察並びに博士論文の作成を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(7) 中里 浩一 (12) 鴻崎 香里奈) General introductionに必要な文献レビュー、各小テーマの再検討、博士論文の作成を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p> <p>(8) 小林 正利 (10) 遠藤 直哉) 形態研究に関連した実験の実施及び結果考察並びに博士論文の作成を中心に演習を展開し、本科目が掲げる一般目標及び行動目標を達成できるよう指導する。</p>	共同集中

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

別記様式第2号(その1の1)補足資料

学校法人日本体育大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本体育大学					日本体育大学				
体育学部					体育学部				
体育学科	750	—	3000	→	体育学科	750	—	3000	
健康学科	195	—	780		健康学科	195	—	780	
スポーツ文化学部					スポーツ文化学部				
武道教育学科	100	—	400		武道教育学科	100	—	400	
スポーツ国際学科	100	—	400		スポーツ国際学科	100	—	400	
スポーツマネジメント学部					スポーツマネジメント学部				
スポーツマネジメント学科	145	—	580		スポーツマネジメント学科	145	—	580	
スポーツライフマネジメント学科	110	—	440		スポーツライフマネジメント学科	110	—	440	
児童スポーツ教育学部					児童スポーツ教育学部				
児童スポーツ教育学科					児童スポーツ教育学科				
児童スポーツ教育コース	150	—	600		児童スポーツ教育コース	150	—	600	
幼児教育保育コース	50	—	200		幼児教育保育コース	50	—	200	
保健医療学部					保健医療学部				
整復医療学科	90	—	360		整復医療学科	90	—	360	
救急医療学科	80	—	320		救急医療学科	80	—	320	
計	1770		7080		計	1770		7080	
日本体育大学大学院					日本体育大学大学院				
体育科学研究科 体育科学専攻 博士前期課程 (M)	25	—	50	→	体育科学研究科 体育科学専攻 博士前期課程 (M)	25	—	50	
体育科学専攻 博士後期課程 (D)	6	—	18		体育科学専攻 博士後期課程 (D)	6	—	18	
コーチング学専攻 博士前期課程 (M)	12	—	24		コーチング学専攻 博士前期課程 (M)	12	—	24	
コーチング学専攻 博士後期課程 (D)	3	—	9		コーチング学専攻 博士後期課程 (D)	3	—	9	
教育学研究科 実践教科教育学専攻 博士前期課程 (M)	20	—	40		教育学研究科 実践教科教育学専攻 博士前期課程 (M)	20	—	40	
実践教科教育学専攻 博士後期課程 (D)	5	—	15		実践教科教育学専攻 博士後期課程 (D)	5	—	15	
保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程 (M)	8	—	16		保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程 (M)	8	—	16	
					運動器柔道整復学専攻 博士課程 (D)	2	—	6	研究科の専攻の設置 (認可申請)
					救急災害医療学専攻 博士課程 (D)	2	—	6	研究科の専攻の設置 (認可申請)
計	79		172		計	83		184	